



祐介の目

No.155

大田祐介 (福山市議会議員)

車も通行できるので、長距離トラック等は福山西ICと篠坂PA区間を積極的に利用することにより2号線の渋滞緩和も期待できるだろう。

福山道路の事業化については、全線一括

ミッシンググリーンク

枝広市長は福山道路の未事業化区間をミッシンググリーンク(途切れた環状線)と称しており、平成13年の都市計画決定すなわち現行ルートは不変なのか、事業期間を何年程度と想定されているのか、今後の市民への説明はどうされるのか、9月議会で質問した。その答弁はルートは不変であり、事業期間は未定であるとのことだった。現2号線の高架化や南の一字堤防に迂回する等の代替ルートを提案する方もいたが、都市計画決定は重たいということだ。

ただ、完成までには30年程度の年数を要すると思われるので、即効性のある渋滞対策も提案した。先日の本誌に掲載された井上氏によるJFE引き込み線を活用した通勤列車案について、JFEやJR西日本と共に検討を行うよう要望した。また、笠岡の篠坂PAに新たに設置されるスマートインターチェンジは大型

ではなく笠岡側から順次取り組み、引野まで延伸すれば、あとは産業道路と鞆街道と草戸から沼隈道路に乗れば福山道路に繋がる。これも2号線のバイパス効果が期待できるし、土木部長の認識も同様であった。問題はミッシンググリーンクの最後に残ると思われる多治米と川口の住宅密集地だろう。両学区は南北に分断される、移転先はどうすれば良いかと多治米小卒の私に多くの住民の声が届いている。リンクを本気で繋げるなら競馬場跡地(未来創造ゾーン)を補償用地として提供するくらいの覚悟が必要ではないか。

最大の課題は市民の合意だろう。今後、市民への事業説明会は国や地元自治会とも協議しながら適切に実施することだ。渋滞問題は福山市の長年の課題であり、これに果敢に切り込まれた市長の手腕を評価したい。私としてはリンクが繋がるよりも、市民の分断が無いように市長を支えたい。